

外出でいす車 もっと気軽に

携帯使い地図づくり実験

車いすで生活する人らが気軽に外出できるよつにと、特定非営利活動法人（NPO 法人）「STAND」（スタンド）は十四日、JR金沢駅周辺で衛星利用測位システム（GPS）とカメラ機能が付いた携帯電話を使い、インターネット上の地図に障害者用スロープやトイレの有無などを登録する実験をした。

（加藤裕治）



地図は「わくわくおで いな花が咲いている」な
かけマップ」と名付け、ど、思わず出かけたくな
登録する情報には「きれ るよつな内容も加えた。

金沢駅周辺で NPO 法人 スロープなど施設調査

STANDのメンバーと、車いすで生活する人ら約二十人がJR金沢駅近くに集まり、四班に分かれ駅周辺を調査した。車いすでも入れるよう階段にスロープが付いた施設などを見つげると、携帯電話で撮影し、GPSで位置を確認、ネット上の地図に記録した。調査終了後、メンバーらは登録した情報を見ながら意見交換した。

実験に参加した車いすの城下由香里さん（右）は「こういう方法が確立し、誰もが外出するようになれば、情報が多く集まる。携帯電話で必要な情報が調べられるようになればとても便利」と期待。STANDのメンバーは「正式に地図を作る場合は、地図代として二百万〜三百万円かかる。実現するには資金面がネックです」などと話した。

「わくわくおでかけマップ」づくりの実験で、町を調査する人たちがJR金沢駅周辺で